各地区会長年頭挨拶

北海道地区道路利用者会議会長

千葉英也

北海道議会議員

令和５年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当会議の運営および諸活動につきましては、日頃から格別のご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、８月、９月と記録的な大雨や台風により全国各地に大きな爪痕を残しました。被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げ、１日も早い復旧をお祈り申し上げます。

北海道においても、８月の大雨により北海道の東西を結ぶ国道２７４号が通行止めとなりましたが、並行する高速道路で通行無料措置がとられ、早期に代替路として活用されたことにより、物流などに対する大きな影響が回避され、ダブルネットワークの重要性を再認識したところです。

高規格道路のミッシングリンク解消や機能向上は、災害時の代替性確保のほか、物流の効率化や観光地へのアクセス向上をはじめ、圏域間の交流・連携の拡大など、さまざまな効果が期待されており、特に広域分散型の厳しい医療環境にある本道にとっては、まさに「命のみち」であることから、早期整備が必要となっています。

また、高度経済成長期に集中的に整備された橋梁やトンネルといった道路施設の老朽化対策、積雪寒冷地である本道特有の冬期の厳しい気象条件による交通障害など、本道の道路交通環境を取り巻く課題は山積しており、高規格道路や一般広域道路から住民生活に最も密着した市町村道に至る道路網における安全・安心の確保が重要となっております。

私たち道民がこれからも安全・安心に暮らすためには、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を計画的・継続的に進めるとともに、通学路等の交通安全対策など、安全な道路交通環境の整備を引き続き着実に進めていかなければなりません。

今後とも道路整備に必要な関係予算の総額確保に向け、全国道路利用者会議の会員の皆様とともに、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、昨年10月に北海道で開催いたしました全国道路利用者会議第72回全国大会に、北海道地区をはじめ全国各地から約７５０名の皆様の出席をいただき、厚くお礼を申し上げます。

併せて、新しい年が、皆様にとりまして希望に満ちた幸多き年になりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

東北地区道路利用者会議会長

庄子清一

㈳宮城県トラック協会会長

令和５年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、当会議の運営及び諸活動につきまして、日ごろより格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は東北中央自動車道（東根～尾花沢）や泉田道路の全線が開通しました。これらの高速道路網の整備により利便性・安全性が向上し、物流の効率化、観光の振興、地域産業の振興など東北地域が活性化されることを期待しております。

一方、近年、全国的に大雨や地震などにより多くの自然災害が発生している中、東北地域においても、昨年３月の福島県沖を震源とする地震による国道３９９号等の通行止めや７月・８月の豪雨により多くの国道及び地方道で通行止めが発生するなど、改めて、災害に強い道路ネットワークの構築の必要性を認識いたしました。

社会資本整備の遅れている東北地域にとっては、高規格道路から市町村道の生活道路に至るまで、災害に強い道路ネットワークの構築や道路施設の適正な維持管理及び長寿命化対策、防雪・除融雪事業をはじめとする冬期道路交通対策及び交通事故対策など、必要とされる事業が重点的かつ効率的に推進されるよう、国の積極的な財政支援と予算措置が重要となっております。

さらに、物流・人流の生産性を向上し、地域連携を強化するためには、安全かつ円滑な輸送を確保するための重要物流道路の追加指定や機能強化の推進、主要幹線道路の渋滞対策、高速道路料金の事業者向け割引の継続及び拡充、高速道路等ネットワークの積極的な整備促進及びミッシングリンクの解消、高速道路におけるトラック駐車スペース等の整備や拡張、暫定２車線区間の４車線化、バスターミナルなどのバス利用拠点及びタクシー専用乗り場の整備や改善など、国民の安全・安心な生活を支える物流業者や交通事業者が抱えている諸課題を解決しなくてはならず、そのためには、長期的・安定的な国の支援が必要不可欠であります。

これらの諸課題を解決し、活力ある地域社会や快適な生活環境を形成するため、今後も関係各方面へ全力で要望してまいりますので、皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げ、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。

関東甲信越地区道路利用者会議会長

古口達也

栃木県茂木町長

令和５年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。当会議の運営並びに活動に対しましては、深いご理解、ご協力と多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大からすでに３年が経過しようとしていますが、いまだ完全な終息がみえておらず、この闘いはまだまだ継続しそうな状況です。昨年を振り返ってみますと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や北朝鮮による弾道ミサイル発射などの世界的な情勢不安、それにともなう燃料・資源価格の高騰や物価高、急激な円安など、生活に影を落とすニュースが多い１年となりました。

また、近年「記録的な大雨」や「大型台風」など気象災害が激甚化、頻発化しています。日本全国、いつどこで災害が発生してもおかしくない状況です。これまでも多くの人命や住宅、生活に欠かせないライフライン、地域の産業などが大きな被害を受けてきました。当会議としましては、災害に強い道路環境を確保するため高速道路や国県道の災害・減災対策、トンネルや橋りょうの老朽化対策の促進は急務と考えております。

そして、道路は快適な国民生活や活力ある社会経済を支える、最も身近で基礎的な社会資本のひとつです。地域づくり・都市づくりを進めるため、高規格幹線道路から市町村道に至る道路全体の整備促進は極めて重要です。交通安全対策として、通学路などの事故危険個所の把握や点検、無電柱化、沿道の環境改善により推進していこうと考えています。我が国では少子高齢化が進み、人口減少の時代を迎えています。特に道路を利用する、運送業界では深刻なドライバー不足が大きな課題となっています。利用者目線に立った整備をソフト・ハード両面で強化していくことで生産性を向上させ、輸送の効率化が図れるものと考えています。今後さらに、「道は命、道は国の力」という自治体や事業者の切なる声に耳を傾け、道路整備財源の充実や強化に向け全力で取り組む所存です。

結びに、皆様のご健勝とご多幸、そして令和５年が災害のない平穏な年となるようお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

中部地区道路利用者会議会長

寺岡洋一

㈳愛知県トラック協会会長

令和５年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、当会議の運営及び諸活動につきまして、日頃から格別のご支援、ご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて、我々が日頃から利用している道路は、豊かな生活と活力ある地域社会を形成するとともに、物流・経済活動を支える社会基盤であり、災害時には、避難活動、救助活動、並びに救援物資輸送を支える「命の道」でもあります。

近年、世界各地で気候変動により頻発する自然災害はその規模を拡大しており、我が国における気象災害も激甚化、頻発化していることや、南海トラフ地震の発生が想定されていることから、強靭で信頼性の高い道路ネットワークの重要性を改めて強く感じているところでございます。

また、建設後50年以上経過する社会資本の施設の割合が加速度的に増加しており、安全安心な道路環境の確保は極めて重要であります。

加えて、中部地区は、モノづくりを中心とした数多くの企業が集積した、日本の経済成長をリードしている地域であり、この地区の物流を支える広域的な幹線道路ネットワークについては、引き続き多くの道路利用者から更なる整備について強い期待が寄せられているところでございます。

さらに、子供達の安全安心を守るための通学路の交通安全対策の強化・推進は喫緊の課題でございますし、トラック、バス、タクシー等の利用者目線での渋滞対策の推進や、交通ターミナルや休憩施設の機能強化など、課題は山積しております。

これまでも、「防災・減災、国土強靭化に向けた５か年加速化対策」や、予防保全による老朽化対策、新広域道路交通計画を踏まえた整備や、通学路の合同点検を踏まえた交通安全対策などの諸施策が進められているところでありますが、これら多くの課題に対応していくためには、一層の予算の確保が不可欠ですし、長期安定的に道路整備・管理が進められるよう新たな財源の創設も必要であると考えております。

道路整備を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、当会議といたしましては、中部・北陸地域の一体的な発展のため、道路利用者の意見を取り入れながら、必要な関係事業予算の獲得や道路整備財源の充実・強化に向けた要望活動に取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

近畿地区道路利用者会議会長

原岡謙一

㈳兵庫県トラック協会会長

令和５年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、当会議の運営及び諸活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

道路は、国民生活や経済・社会活動を支える最も基礎的な社会資本であり、円滑な自動車交通の確保、物流の効率化等のため必要不可欠なものであります。そのため、都市・地方を問わず、その整備には道路利用者から強い期待が寄せられております。

近年、多くの災害に見舞われており、直近では令和４年８月の福井県及び滋賀県の大雨により、高速道路をはじめ国道・地方道が多くの箇所で寸断されるなど、人・物の輸送をはじめ国民経済・生活において、多大な影響が生じました。今後、南海トラフ巨大地震などによる被害が想定されるなか、災害に強い道路ネットワークの構築が喫緊の課題となっております。

また、現在、新型コロナウイルス感染症が長期化するとともに、ウクライナ情勢などに伴う原油価格や物価の高騰などにより、地域経済が多くの業種で影響を受けている中、観光や製造業等広範囲にわたる業種に波及効果をもたらす道路整備を一層着実に推進することが肝要となっております。

一方、２０２５年には大阪・関西万博の開催が予定されている中で、その効果を最大限生かすため、周辺地域を起点とした各地へのアクセス強化が急務となっております。

これらの課題に対応するため、関連するインフラ施設の整備、とりわけ高規格道路事業中区間の完成に向けて取組を加速化する必要があると考えています。

そのためにも、地方創生及び国土強靱化を推進し、ストック効果を早期に発現させるため、『防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策』を計画的に推進することにより、「高速道路等のミッシングリンク解消及び４車線化、高規格道路と直轄道路とのダブルネットワーク化等による道路ネットワークの機能強化対策」や「予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策」の加速化・深化を図ることが必要であり、そして、５か年加速化後も予算・財源を別枠で確保して、継続的にスピードを緩めることなく、整備の促進を図っていくことが必要不可欠であります。また、トラック、バス、タクシー等の利用者目線での渋滞対策を推進するなど、真に必要な道路整備に計画的かつ着実に取り組んでいかなければなりません。

つきましては、長期安定的に道路整備・管理を進められるよう、新たな財源を創設するとともに令和５年度道路関係予算は、所要額を満額確保できるよう、全国各地の道路利用者会議や道路団体と共に、引き続き要望活動に取り組んで参りたいと考えております。

最後に、本年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

改良すべき踏切道85箇所を新たに指定

国土交通省では、踏切道改良促進法に基づき、交通事故の防止及び交通の円滑化に寄与することを目的に踏切道対策を推進している。

今回、開かずの踏切などの緊急に対策の検討が必要な踏切や地域で課題があると認識している踏切などについて、改良すべき踏切道として、新たに全国85箇所の指定を行った。

これらの箇所においては、法の規定に基づき、立体交差化や拡幅等の対策に加え、周辺迂回路の整備などの面的・総合的対策や踏切道のバリアフリー化など、地域の実情に応じた幅広い踏切道対策が検討・実施されることとなる。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001616.html